

ODA政策への市民参加とは

川村暁雄（関西学院大学人間福祉学部教員）

ODA改革パブリックフォーラム

2009年11月28日、第3分科会

今日の話の流れ

- 市民参加の目的
- ODA政策の特殊性と「原罪」
- 知恵の結集／監視と納得のための課題
- 結論

市民参加の目的

- **目的1：知恵の結集**
 - 「貧困撲滅と世界的格差の減少」のために幅広い関係者の知恵を集める
- **目的2：監視と納得**
 - 透明性・公開性を保障、「害をなすODA」をチェック、政策への支持を獲得

ODA政策の特殊性と「原罪」

ODAの上位政策≠開発政策

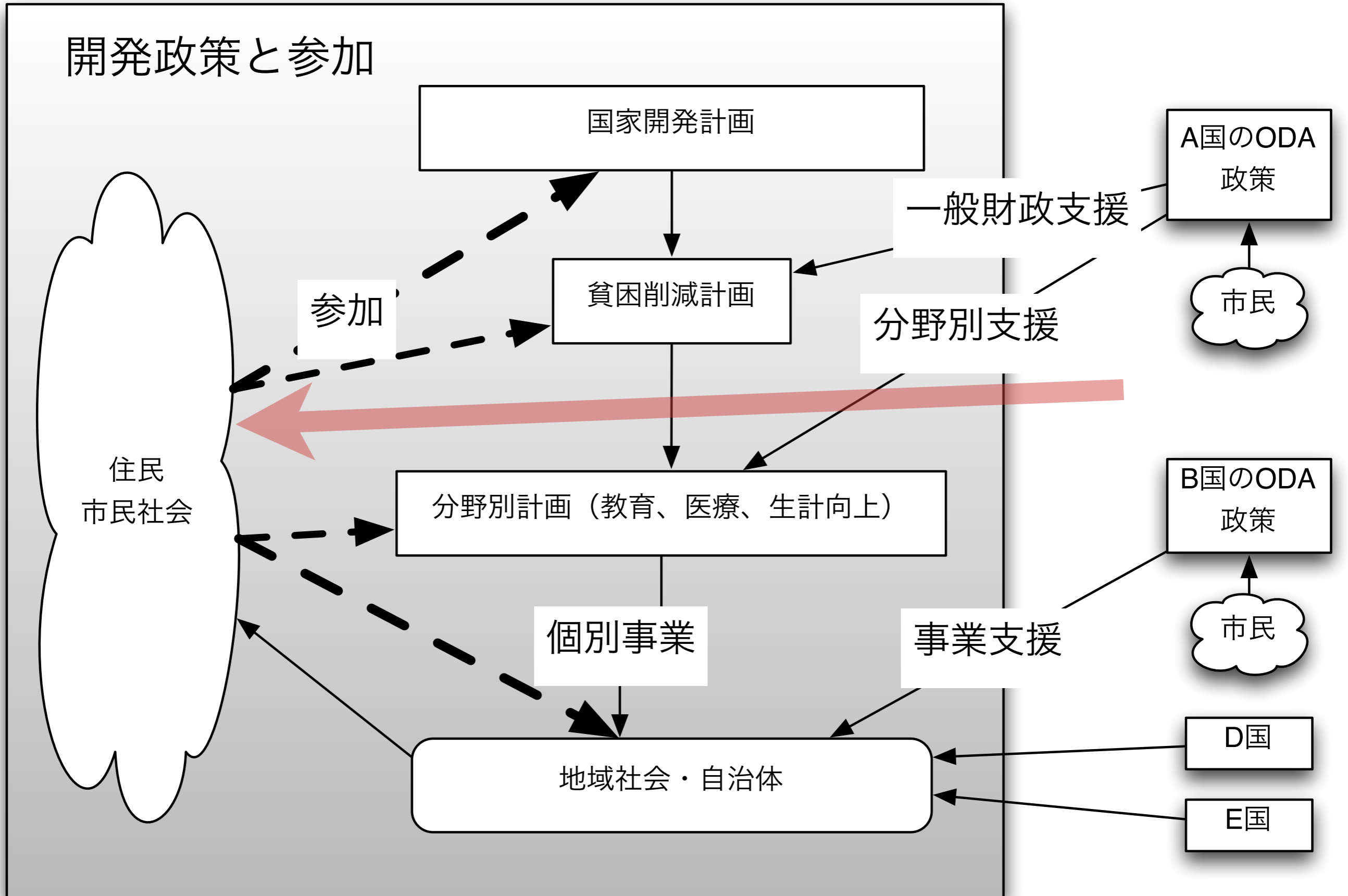
- ODA事業の上位政策は、援助受入国の
開発政策・分野別政策



ODAの「原罪」

— 開発への市民参加を阻害？ —

開発政策と参加



知恵の結集/監視と納得

- レベル 1 : ODA政策による開発への参加促進
 - 住民が開発に参加できるODAとは？
- レベル 2 : ODA政策への参加
 - 市民・NGOの知恵をどう集めるか
 - 受入国市民・NGOの知恵をどう反映

レベル1:ODAによる参加

- 事業への参加の担保（「害をなさない原則」と住民参加）
- 環境社会配慮ガイドライン、実施体制の一元化
- 住民・市民の開発政策への参加・監視
- 市民社会支援、分野別・一般財政支援

レベル2:ODA政策への参加

- 知恵の結集/監視と納得：（参考資料）
 - 根拠に基づいた政策
 - 過去の評価、国際的な潮流の把握
 - 多様な意見をしっかりと検討、意志決定者が根拠を明らかに
 - 透明な政策過程の担保

結論:

- 政策への参加：知見集約・監視・納得を得るための参加
- ODA政策による参加促進
- ODA事業における参加のためのODA政策
- 住民の開発政策への参加を促進するODA